

平成30年度 岡本北小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（具体的な児童生徒像など）

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしい子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の心を動かす教育活動を展開するとともに、「安心して通うことのできる楽しい学校」「自分の力を発揮し高め合える学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 生命を尊重する心や思いやりの心など豊かな心、確かな学力の向上、健康や体力の保持増進などたくましく生きる人間力の育成に努める。
- (2) ICT化を進めるとともに、児童の学びを支える安全で潤いのある学校環境づくりに努める。
- (3) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め個々の指導力を高めるとともに、校内の研修会をより充実し、組織としてのチーム力の向上を図る。
- (4) 学校、地域、家庭との連携を密にして、地域の教育資源や教育力を活用しながら、開かれた学校づくりを推進する。
- (5) 校内業務の精選に努めながら、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち、その実現に向けて、よく考え、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成
- ・本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実

【学 習 指 導】

- 学び合い活動を重視した言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成
- 基本的な学習態度の徹底及び家庭学習の習慣化
- ICTを活用した英語教育や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着

【児 童 生 徒 指 導】

- 自他の人権を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成
- いじめの未然防止及び規範意識や思いやりの心の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 年間を通じた体力向上プログラムの推進
- ・ 自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体のアンケートの「私は、今の学校が好きです。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童の自己肯定感や主体性を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにするため、各行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定する。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…92.3→93.5% ↑ ①については、児童・保護者とも割合が上がり主体的な活動が様々な場面で見られるようになってきた。 ②については、昨年度からの継続の取組が少しずつ定着し、話をよく聞く姿が見られるようになってきたので、さらに継続していきたい。 【次年度の方針】 ①については肯定的回答の高い数値を維持していることから各行事・各活動等のさらなる工夫に取り組む。 ②については継続の取組が成果として表れているので児童の良さを認め伸ばす指導の継続を行う。
		② 児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、話をよく聞き、声をかけることで児童に対する意識付けを行い、よさを認め伸ばす指導を繰り返し行う。	B	
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体のアンケートの「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学校経営方針や学習指導要領の理解を深め、全職員一丸となり協働して教育活動に取り組む。	B	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…91.8→93.5% ↑ ①については、学校経営方針の中で、めざす子ども像を変え、保護者への理解がなされてきた。 ②については、保護者の授業づくりに対する理解が深まってきた。 ③については、外国語活動に対して前向きな取組が見られ、全教職員での授業力向上が図られた。 【次年度の方針】 ①このような取組をしていることについて、学校だよりや HP などを通して、保護者への啓発に努める。 ②授業参観や学年だよりなどを通して意図的に保護者に伝える。 ③一人一授業などの授業公開や、学校内外での研修などを通して学んだことを意見交換することで、各教員の指導力向上を図る。
		② 授業のねらいについて、明確な提示とねらいに即した振り返りの仕方、構造的な板書等を工夫することにより、児童が主体的に学ぼうとする授業づくりを推進する。	B	
		③ 校内研修での事前授業や互いに見せ合う一人一授業の実施により、同僚性を高めるとともに、教職員の授業力向上に努める。	B	
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」⇒児	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、各家庭に配付し、約束の内容と意義を児童・保護者・職員が共有し、全職員・保護者が共通理解の下、さらに実践化が充実するよう連携して指導できるようにする。	B	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…96.3→97.8% ↑ ①については、ほとんどの児童が約束に対する認識が高まり、実践されるようになってきたので、より徹底させるようにしたい。 ②については、「ふりかえりタイム」の実施と生活目標の徹底により、目標の達成度が高まってきた。

童の肯定的回答 80%以上	② 毎月「ふりかえりタイム」を設定し、きまりやマナーについて自己評価をしたり、週に一度打合せ時に生活目標の達成状況等について話し合ったりする場を設け、全職員共通理解の下、指導を継続して行う。	【次年度の方針】 ①については、今後もお便りや学級懇談会などを活用して、家庭との連携を図っていく。 ②については、あまり守られていない項目について重点的に指導していく。また、今後も全職員が足並みをそろえて指導できるように、随時話し合いの場を設けるようにする。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① T・T、少人数指導、習熟度別学習等の実践が周知されており、より効果的な指導を行うとともに、個に応じた授業の展開を工夫し、学力の向上を図る。 ② 各教科等において、授業開始時刻も徹底され、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するように、ICTなどの教育機器等を効果的に活用したり、ペア・グループ学習等の学習形態を工夫したりして、魅力ある授業を実践する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…86.2→84.9% ↓ ①については、習熟度別学習や少人数指導の実践を継続してきたが、それぞれの児童の底上げを充実させたい。 ②については、開始時刻も徹底され、リズムが出てきた反面、突発的な変更もみられ常時活動の難しさがあった。 【次年度の方針】 ②について、ICTは外国語活動のみならず、他教科・他領域の授業にも取り入れていくようにする。また、普段から、話し合い活動を積極的に取り入れ、様々な学習形態を工夫する。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心がけていくことにより、「いじめはしない。」という児童の意識化を図る。 ② いじめに関するアンケート調査、なんでも相談、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議やブロック会議の計画的・実践的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見につながる日常的な取組に加え、緊急時にいじめ対策委員会を実施する等組織的に対応する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…82.4→88.2% ↑ ①については、継続的な指導や掲示などにより、児童の意識が高まり、保護者の理解も深まってきたので、継続していきたい。 ②については、昨年に引き続き、いじめ防止月間での具体的な取組や「チーム学校」としての対応が定着してきた。 【次年度の方針】 ①については、いじめは絶対に許さないという姿勢を、古里地域学校園で足並みをそろえて具体的な指導にあたっていく。 ②については、積極的にいじめを認知し、組織的に対応していく。その際は、保護者への連絡も必ず行うようにする。いじめ対策の取組内容等もお便りなどを通して積極的に家庭に発信していく。いじめの未然防止や早期発見につながるアンケートの実施やケース会議等も引き続き定期的にも実施していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体のアンケートの「学校の日課・授業・行事などは適切に実施されている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 週案による時数管理を確実に行うとともに、学校行事終了後の振り返りや中間評価等により、次年度の教育課程の工夫改善を行う。 ② PTA、古里地域学校園、地域協議会等との十分な行事調整を図りながら、年間行事予定を作成し実践する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…97.0→98.9% ↑ ①については、振り返りや中間評価の活用が継続され、改善が図られていた。 ②については、それぞれの団体との行事調整を行い、PTAや地域などの理解が深まった。 【次年度の方針】 次年度も日課や行事等を適切に実施することができるよう、PDCAサイクルを活用して取り組んでいく。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】	① 年3回学校公開日（土曜授業2日、平日の授業公開1日）を設け、保護者及び地域住民への参観を呼びかける。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…97.1→98.2% ↑ ①については、参加率も高く参観者も多かったが、回数を減らしてもという保護者からの

全体のアンケートの「学校は学年だよりや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	② 学校・学年だよりや各種便りの発行と学校ホームページの定期的な発信等一層の充実に努めるとともに、伝える内容の精選と見やすく分かりやすい表現についてさらに工夫する。	意見もあった。 ②については、各種便りについては、計画的に発行することができ、ホームページなどへの発信も継続され、理解が深まった。 【次年度の方針】 ①については、より魅力的な授業内容を工夫してPRする。 ②については、次年度も学校の取組や児童の様子を分かりやすく伝えることができるよう、引き続き内容を工夫して発信していく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体のアンケートの「学校は、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	① P T A、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、学校支援ボランティアの協力を得ながら、教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② 地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業等幅広い内容の指導を取り入れ、地域の教育力を生かした教育活動をさらに推進する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…94.5→91.3% ↓ ◇保護者の肯定的回答…93.1→95.5% ↑ ①については、学校支援ボランティアの活動がさらに増え、連携・協力の実践が高まった。 ②については、読み聞かせボランティアの充実が図られたが、児童の意識が少し下がった。 【次年度の方針】 ①②とも、コーディネーター等の協力を得て、外部の支援が充実している。逆に児童にとっては当たり前の活動になってきているので、意識を高めながら、さらに計画的な実践に努める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体のアンケートの「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 清掃の手順を明確にしたり、身の回りの整頓やごみを落とさない、落ちているごみは拾うなどの指導を学級活動で話し合ったりし、児童の清掃及び環境美化への意識を高める。 ② 毎月の安全点検、月例検査、各教室・特別教室・資料室等の備品整理や設備修理を定期的・日常的に実施し、備品の管理者を詳細に決定し、安全で学習しやすい環境づくりに努める。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…93.5→97.0% ↑ ①については、縦割り班での清掃が定着したが、場所によってよくやっていたり不十分だったりする箇所が見られた。 ②については、ギャラリーの展示が充実し、岡本城の清掃活動の掲示などで、保護者の理解が深まった。 【次年度の方針】 次年度も今年度同様、全職員の共通理解のもと、指導の徹底を図る。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 学校は、それぞれの校種での「あいさつ運動」や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行うと同時に保護者への情報発信を強化しながら活動していく。 ② 学校は、小学校と中学校が連携し、それぞれの教員が授業を行う交流授業の実践などを通して「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…93.6→91.9% ↓ ◇保護者の肯定的回答…88.6→90.8% ↑ ①については、小中合同のあいさつ運動が継続され、学校全体としての取組として周知された。 ②については、交流授業なども充実してきたが、児童の意識が少し低下した。 【次年度の方針】 ①については、今年度は小中合同の取組が増え、保護者への発信も強化されたので、引き続き積極的に情報を伝えていく。 ②については、中学校から縮小の方針が伝えられているが、できる範囲での取組を行う。
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。	① A L TやS Cから、専門的な支援を受けながら、児童の学習や問題などに対して連携して取り組み、業務の縮減を図っている。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…66.7% ①については、専門スタッフの助言などが効果的で、参考になる部分が多かった。

		【数値指標】 全体のアンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」⇒教職員の肯定的回答 70%以上	② 非常勤講師との連携で、学力向上や読書活動など幅広い学習活動を協働し、教員各自の業務の支援を行うことで、業務縮減を図っている。	A	②については、地域協議会等の協力を得ながら実践活動を進めているが、担当の負担が大きい。 【次年度の方針】 ①については、今後も ALT や SC と連携を取りながら児童の学習や問題などに対し、向き合っていく。 ②については、担当の負担を考慮しながら協力を得るようにしていく。
		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体のアンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語活動の事前打ち合わせや教育相談の調整において、担当者と担任との間で、連絡調整の時間を確保し実践している。 ② 図書の要望や図書館の活用の仕方、かがやきルームに通う支援児童の情報交換など、こまめな話し合いやプリントの提示などにより、コミュニケーションを図っている。	A	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…79.2% ①については、連絡調整の時間をできるだけ確保しようとしているが、実際には時間調整がなかなか難しい。 ②については、細かな仕事や助言など細部にわたってのサポートが見られるので、今後も充実させたい。 【次年度の方針】 ①については、ALT の勤務態様に配慮しながら、隙間時間などを有効に活用していく。 ②については、隙間時間やボード、プリントなどを活用しての細やかな情報交換を今後も継続し、円滑なコミュニケーションを図っていく。
		B1 「魅力ある学校づくり地域協議会」の経営参画を積極的に進めている。 【数値指標】 全体のアンケートの「学校は、魅力ある学校づくり地域協議会と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 今年度の努力点や学校で課題となっていることを積極的に説明し、地域協議会の意見を反映するとともに、学校と地域が一体となって課題解決にあたる。 ② 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。	B	【達成状況】 ◇地域住民の肯定的回答…100→100% ↑ ①については、昨年度に引き続き、部会ごとの話し合いが深まり、成果や課題もより具体的になってきた。 ②については、ボランティアの活動が拡充され、今後も学年に応じた内容が充実してきた。 【次年度の方針】 今年度も評価が高く、充実した活動ができたので、次年度も継続して取り組んでいく。
教育活動の状況	生	A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行い、状況に合わせた黙礼の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。 ② 学級懇談や学校・学年だより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を伝える等積極的に働きかけ、「あいさつふり返しカード」を活用しながら学校・家庭・地域が一体となって指導の徹底を図る。	B	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…79.8→82.4% ↑ ①については、あいさつに対する意識が高まり、低学年などが大きな声であいさつしている。ボランティアの活動も定着してきた。 ②については、全体的な指導や広報活動が広がり、保護者の認識も高まってきた。さらに、地域協議会等の協力を得ながら実践活動を進めることができた。 【次年度の方針】 ①については、今後も毎週水曜日のあいさつ運動と、年に3回のあいさつ運動週間を設け、あいさつの定着を図っていけるようにしていく。また、高学年を中心に、時と場に応じた黙礼もできるように指導をしていく。 ②については、あいさつふりかえりカードやお便りを有効に活用し、学校・家庭・地域が一体となって指導の徹底を図っていけるようにしていく。

健康・体力	A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」⇒児童と地域住民の肯定的回答 80%以上	① 相手の立場や時と場に応じた正しい言葉づかいを発達段階に応じてその場で具体的に示し、全職員の共通理解のもと全校体制でよりよい言語環境へ向けて繰り返し指導する。 ② 人を傷つける言葉については、道徳の時間などを通して徹底的に指導し、児童・保護者・地域住民・教職員の共有のもと、指導の一体化を図り、より良い人間関係が育んでいけるようにする。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…89.8→90.7% ↑ ◇地域住民の肯定的回答…100→94.1% ↓ ①については、全校体制での指導は、共通理解のもと徹底してきている。高学年の児童の姿が、全校生に波及してきた。 ②については、教職員での統一した指導により、校内での充実を図られてきたので、地域に広げられるようにしたい。 【次年度の方針】 ①については、友達同士でもさん付けで呼ぶようにさせるなど、指導を徹底していく。 ②については、道徳の時間に力を入れて取り組み、よりよい人間関係が育まれるように指導に当たっていく。
	B2 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自のアンケートの「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学級等において、日常的に協力することの大切さを指導するとともに、道徳の時間においても協力・協調の態度を育む指導を重点化する。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童が協力して活動する場を意図的に設ける。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…98.2→95.6% ↓ ①については、各学級での活動が充実したので、学校全体での取組を充実させたい。 ②については、高学年の頑張りがよくみられたので、それを広げたい。 【次年度の方針】 ①については、児童同士による学び合いの時間をできる限り多く設けていく。 ②については、どの学級においても係活動の活性化を図っていく。また、児童会が中心となって、ゆるキャラ「きらりん」を有効に活用して、愛校心を高めながら協力して取り組んでいけるようにしていく。
	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、休み時間や放課後など、積極的に運動をしている。」⇒保護者の肯定的回答 75%以上	① 元気っこ体力チェックの結果を踏まえ、教科体育や体育的行事を通して、児童が目標を決めて進んで取り組めるように、各種の検定やがんばりカードなどを工夫改善し、継続して指導に生かす。 ② 北小タイムやロング昼休みなど、児童に積極的に外遊びをするように奨励する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…65.0→74.1% ↑ ①については、がんばりカードなどを効果的に活用した取組みが浸透し、保護者の協力も得られてきた。 ②については、各学年とも外遊びをすることが増えてきているので、継続していきたい。 【次年度の方針】 教科体育の充実、外遊びの励行を継続する。
	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 食の大切さや楽しさを実感できる学級活動や家庭科の授業を実践するとともに、給食がんばりカードの活用や、給食時間の指導を通じて、食に対する関心を高める。 ② 学級懇談や個人懇談等において給食の状況について伝えたり、食育だよりを定期的に発行したりして、食の大切さについて学校と家庭とが連携して取り組むよう保護者への啓発を図る。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…65.8→79.0% ↑ ◇教職員の肯定的回答…91.3→100% ↑ ①については、「おにぎりの日」や「お弁当の日」など全校での活動が充実し、食に関する関心を高めることができた。 ②については、学校給食委員会や食育だよりなどの情報発信で、保護者を中心として食への意識が高まった。 【次年度の方針】 次年度もマナー週間のPR、チェックシートの活用を通して、意識の向上を図る。
	B3 児童は、進んで自分の健康づくりに取り組んでいる。	① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…93.1→93.7% ↑ ◇保護者の肯定的回答…87.2→87.8% ↑

	【数値指標】 独自のアンケートの「私は、健康に気を付けて、規則正しい生活をしている」⇒児童、保護者の肯定的回答 85%以上	② テレビ、ゲーム機、スマホゲーム等の利用時間や利用方法などについて日常的に指導し、規則正しく健全な生活を送ることができるようにする。	B ①については、家庭への呼びかけで、朝食の摂取も増えてきて継続が図られている。 ②については、出前講座なども企画し、より情報提供の場を拡大し、啓発の継続を行っている。 【次年度の方針】 ノースマホデーに合わせて、ノーゲームデーを設けて、意識の向上を図る。
学 習 等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① ICTなどを効果的に活用し、魅力のある学習課題及び提示の仕方を工夫するとともに、「分かる」「できる」授業の展開に努め、自信をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。	A 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…92.9→90.4% ↓ ①については、よりICTの活用が見られ、課題提示や展開、終末の各部分においても工夫が見られた。 ②については、話し合い活動を積極的に取り入れ、各学級において活動の工夫が見られた。 【次年度の方針】 ただ話し合わせるだけでなく、発達段階に応じてスキルアップできるように指導していく。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 「学習の約束」「話し方・聞き方の約束」をもとに、学習に取り組む態度や姿勢について、低・中・高学年ごとの共通理解を通して繰り返し指導を行う。	A 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…91.2→89.0% ↓ ①については、約束に従って、落ち着いた態度で聞く・話すができるようになってきた。さらに継続指導をしていきたい。
		② クラブや委員会活動、出授業、補教等で見取った児童の様子やよさを認め励ましたり、随時担任に伝えたりして、全校体制で児童の指導に継続して取り組む。	B ②については、学校全体での評価体制が共通理解され、こまめな広い情報交換が行えた。 【次年度の方針】 毎月末に実施している「ふり返りタイム」を活用する。
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 地域のお祭りや文化祭などに積極的に参加できるよう、行事の紹介や呼びかけなどを行う。	B 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…87.0% ①については、各行事のプリントなどを広く配布し、周知してきた。
		② 地域の清掃活動など学校からボランティア活動を発信し、地域との連携を図っている。	B ②については、学校全体での活動ができたので、今後地域に広げられるように、方法を検討していきたい。 【次年度の方針】 ①については、学校から伝えられることはこれからも広く知らせていく。 ②については、地域と学校のつながりを大切にしながら活動の検討をしていく。
	B4 家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】 独自のアンケートの「私は、宿題や自主学習を計画的に行っている。」⇒児童、保護者の肯定的回答 80%以上	① 古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、児童の実態に応じて、宿題及び家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示し、家庭学習の習慣化を図る。	B 【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…89.9→86.3% ↓ ◇保護者の肯定的回答…67.1→70.3% ↑ ①については、共通理解のもと宿題の具体性が図られてきた。学校全体として継続していく必要あり。
		② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるように努める。	B ②については、昨年度に比べて周知が図られてきたので、継続していきたい。 【次年度の方針】 チャレンジカードを活用するとともに、保護者に家庭学習の大切さを知らせるようにさらに努める。

本校の特色・課題等	B 5 自分の考えを持ち、進んで表現し、学び合える児童を育成する。 【数値指標】 独自のアンケートの「児童は、思ったことや考えたこと、感じたことを、自分の言葉で表現している。」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	① 自分の意見や考えを自由に発表できるような雰囲気づくりに努め、児童が必要を感じたり、関心・意欲を持って取り組んだりできる言語活動の場を意図的・計画的に設定する。 ② ノートや学習プリントに本時の振り返りを記入したり、発表ボードに自分の考えをまとめたりする活動を充実させ、意欲的に自分の考えや想いを表現できる児童の育成に努める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…92.3→82.8% ↓ ◇教職員の肯定的回答…96.0→91.3% ↓ ①については、授業などでも指導での継続が図られてきたが、場面の工夫も取り入れていきたい。 ②については、どの学級でも発表の実践が図られた。表現の機会を増やし、継続していく必要がある。 【次年度の方針】 ・各教科や各領域において、話し合い活動を積極的に取り入れ、様々な機会です話活動が充実してきた。今後は、発達段階に応じた発表の仕方ができるように、どの学年も「話す」スキルを磨くようにする。また、児童が自分の意見や考え方を自由に発表できるような雰囲気づくりや間違えても大丈夫という雰囲気づくりにも取り組む。
-----------	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 基本的な学習態度の育成は昨年度から継続しているので向上が見られた。
- 家庭学習については、共通理解のもと宿題の具体性が図られてきた。学校園で作成した「家庭学習のすすめ」に加えて、今年度本校で新たに作成した学年ごとの自主学習のしかたをもとに同じフォームで他校も作成することができた。さらに家庭学習の充実を図るようにしたい。
- ICTについては、学校課題として取り組み研修を行ってきたので、英語教育にみならず他教科・他領域でも活用がされていて、児童の理解度や興味・関心度が高まってきた。
- 「きまりを守りマナーを守って生活しているか」の評価指標については、振り返りタイムの実施と生活目標の徹底は図ることができたが、形骸化している面も見られる。指導内容を絞って、重点的に指導するなどの工夫も必要である。
- 「いじめ対策の取組」についての評価指標については、児童会活動でいじめゼロの取組を積極的行ったり、古里地域学校園の取組で中学生がいじめゼロの劇を見せてくれたりしたことは効果につながった。また、おたよりやHPなどを通して定期的に学校の取組について発信したこともよかった。今後も、いじめを認知したら、組織的に対応し、保護者への連絡も必ず行ったり、学校の取り組みを積極的に公表したりしていくとともに、いじめの未然防止や早期発見につながるアンケートの実施やケース会議等を定期的実施していく必要性があげられる。
- 「時と場に応じたあいさつ」の評価指標については、毎年行っている1年間を通したあいさつ運動などの取組が効果をあげている。あいさつ運動は、保護者や地域の方とも連携を図り、さらに家庭や地域とともに実施できるようにしていく必要性があげられる。高学年を中心に、時と場に応じた黙礼ができる態度を身に付けられるように引き続き指導していく必要性もあげられる。
- 「時と場に応じた言葉遣い」の評価指標については、教職員が一体となって取り組んできたことが効果をあげた。ただ、だれに対しても敬語を使えていない様子も見られるので、友達同士でもさん付けで呼び合うことができるように、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていく。
- ・「協力して活動しているか」の評価指標については、各学級において学び合う時間を多く設けたことが効果をあげた。今後も、児童会活動において、ゆるキャラ「きりりん」を有効に活用し、愛校心を高めながら協調性が育まれるような取組を充実させる必要性があげられる。

6 学校関係者評価

【あいさつ】

- ・あいさつや清掃への取組が充実している。
- ・学校全体や地域にあいさつの雰囲気広がってきている。
- ・地域に広げるためにも、家庭や地域住民からのあいさつがあるとよい。

【いじめ】

- ・いじめへの取組はよく行われていると思われるが、地域として実態がよくわからない。
- ・学校だよりなどを中心とした広報活動が、地域の理解へとつながっている。
- ・古里地域学校園全体としての取組を、地域に広めていけるようにしたい。

【その他】

- ・現在の教育目標を充実させ、継続して実行してほしい。
- ・地域と連携した活動をもっと広めていきたい。
- ・最新の教材・教具で学習していることが素晴らしい

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（１）学び合う子を育てる

- 基本的な学習態度の育成は昨年度から継続しているので向上が見られた。さらに「学習のきまり」の定着について、全教職員の共通理解のもと、継続して基本的な学習習慣の定着を図っていく。
- 家庭学習については、共通理解のもと宿題の具体性が図られてきた。学校園で作成した「家庭学習のすすめ」に加えて、今年度本校で新たに作成した学年ごとの自主学習のしかたをもとに同じフォームで他校も作成することができた。さらに家庭学習の充実を図っていく。
- ICTについては、学校課題として取り組み研修を行ってきたので、英語教育にみならず他教科・他領域でも活用がされていて、児童の理解度や興味・関心度が高まってきているので継続していきたい。
- 「きまりを守りマナーを守って生活しているか」については、振り返りタイムの実施と生活目標の徹底は図ることができたが、形骸化している面も見られる。指導内容を絞って、重点的に指導していきたい。
- 自分の考えを進んで表現しようとする意識や姿勢が、まだ定着していない現状が見られ、児童にも教職員にも共通で取り組む課題として考えられる。学力向上の上でも、意識を高め、表現の多様性を検討しながら指導をしていきたい。

（２）助け合う子を育てる

- 「いじめ対策の取組」については、児童会活動でいじめゼロの取組を積極的に行ったり、古里地域学校園の取組で中学生がいじめゼロの劇を見せてくれたりしたことは効果につながった。また、おたよりやHPなどを通して定期的に学校の取組について発信したこともよかった。今後も、いじめを認知したら、組織的に対応し、保護者への連絡も必ず行ったり、学校の取組を積極的に公表したりしていくとともに、いじめの未然防止や早期発見につながるアンケートの実施やケース会議等を定期的に実施していきたい。
- 「時と場に応じたあいさつ」については、毎年行っている１年間を通したあいさつ運動などの取組が効果をあげている。あいさつ運動は、保護者や地域の方とも連携を図り、さらに家庭や地域とともに実施できるようにしていく必要性があげられ高学年を中心に、時と場に応じた黙礼ができる態度を身に付けられるように引き続き指導していきたい。
- 「時と場に応じた言葉遣い」については、教職員が一体となって取り組んできたことが効果をあげた。ただ、だれに対しても敬語を使えていない様子も見られるので、友達同士でもさん付けで呼び合うことができるように、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていく。
- ・「協力して活動しているか」については、各学級において学び合う時間を多く設けたことが効果をあげた。今後も、児童会活動において、ゆるキャラ「きらりん」を有効に活用し、愛校心を高めながら協調性が育まれるような取組を充実させていきたい。

（３）鍛え合う子を育てる

- 検定やがんばりカードなどの活用が図られ、児童の運動に関する肯定的回答の割合が上昇してきた。元気っ子体力チェックの結果を生かした取組を継続的に取り入れるようする。
- 年度当初に、全児童が自分のめあてをたて、その実現に向けて努力していくことを指導してきた。キャリアコーナーには、昨年度に続き将来の夢を掲げ、全校児童にも提示することで人間関係の醸成を図っていききたい。

（４）開かれた学校づくりを進め、地域に根ざした教育活動の推進に努める

- 地域協議会の協力のもと、学習支援ボランティアや出前授業の実施など、各学年ともに授業内容の充実を図っている。学校だより等を中心に、学校の教育活動の周知を図り、保護者や地域の理解を深めていけるような活動を計画していく。